

2026年(令和8年)8月27日(木曜日)



「来てくれて本当に助かったよ」の言葉を励みに

卒業生が社会に出て、地域の中で活躍する姿を見るのは、教員にとって何よりの喜びです。今回は、株式会社渡敬でエンジニアとして働く一

戸朝日さんを紹介します。戸さんは令和5年4月に同社へ入社し、現在はお客さまの元を訪ねて、複合機やプリンターなどの修理・保守メンテナンスを担当しています。戸さんは「急に動かなくなったり」「印刷の調子が悪い」といった困り事に対応するほか、故障を未然に防ぐための定期点検や予防交換にも取り組んでいます。

戸さんは「自分で直せる技術を身につけて、将来どんな場面でも役立つ」と考えて、大好きな機械に就きました。戸さんは、秋田職能短大 電子情報技術科卒業です。

株式会社渡敬
一戸朝日さん
(秋田職能短大 電子情報技術科卒業)



複合機のメンテナンスをする一戸さん

いるのでしょうか。一戸さんは現在、「お客さまの稼働時間に一刻も支障をきたさない、頼れるエンジニア」を目指しています。そして、生まれ育った地元で、技術で恩返しをしていきたいと話してくれました。

いった学生時代の学びが「社会人としてのスタートダッシュに繋がった」と感じています。そして、そんな温かさや優しさに支えられながら、地域で働く一戸さんの魅力として挙げられてきたのが、地域の方々の温かさです。戸さんは「エンジニアになっから学ぶ続け、経験を積み重ねながら、一歩ずつ技術者として成長している一戸さんの成長は、これから社会へ巣立つていく学生たちにとって、大きな励みになるはず」と感じています。

技術者の仕事は、機械を直すことだけではありません。その機械を使って仕事をしている人の不安を取り除き、普段の生活や仕事を取り戻すことも大切な役割です。そして、最後に頂く「ありがとう」や「助かったよ」という言葉が、次の仕事への力になっていくのだそうです。

これから多くの経験を重ね、地域の皆さんに愛され、困った時に「一戸さんにお願ひしよう」と思ってもらえるようなエンジニアになることを心から願っています。

東北能開大秋田校 電子情報技術科 特任准教授 加賀 佐